

追悼の辞

日本人戦没者慰霊祭の挙行に際し、フィリピン在留邦人を代表し、全ての戦没者の御霊に、謹んで哀悼の意を表します。

ここフィリピンでは、先の大戦において、実に五十万人を超える日本軍将兵、二万人の民間人の方々が、尊い命を落とされました。

フィリピン各地の戦闘で、或いは飢えに、或いは病に苦しみつつ、祖国日本、故郷、何よりも愛する家族を想いながら戦禍に散った方々は、いま私たちが見る、この南国の美しい空と同じ空を、山を、海を、花を見ながら、無念の死を遂げられました。その方々がどのような思いで最期を迎えられたか、このことに思いを馳せる時、改めて痛惜の念が胸に迫ります。

また、この戦禍により、日本人犠牲者に倍する実に百十万人以上のフィリピンの方々が犠牲になったことも忘れてはなりません。

先の大戦が終わり、長い歳月が流れ、今年は八十年という節目の年を迎えました。昭和はすでに遠く、平成を経て、今は令和の時代となっています。戦後、私たち日本人の多くは、幸いにも平和を享受しています。また、日比両国は現在の、これまでにないほど大変良好な関係を築くに至りました。

このような平和と信頼の礎を築いてくださったのは、戦時下の恩讐を超えた、フィリピンの人々の赦しの心、そして我々の先人達の、たゆまざる努力に他なりません。

一方で、世界に目を向ければ、近年各地で新たな戦争や紛争が勃発し、今この瞬間にも、戦禍の中で苦しんでいる多くの人々がおられます。戦後 80 年の節目に際し、改めて日本の、そして世界の平和を実現することが現代に生かしていただいている私達の責務であると思います。

本日、このカリラヤの地で、ご参列の皆様と共に、かつてかくも多くの人々の尊い血が流れ、幾多の犠牲が払われたことを深く心に刻み、後に続く世代に永遠に語り継ぎ、日比両国の一層の相互理解と友好の礎とすること、そして世界平和の実現を目指すことを、戦没者の御霊の前で改めて誓います。

戦没者の皆様、どうぞ安らかにお眠りください。

令和七年 八月 十五日

マニラ日本人会 会長 岡本 和典